



医療法人社団 仁恵会

石井病院

人工透析ひ尿器科じんけいクリニック

Now

Vol.173

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2022.8



第42回 日本静脈学会総会にて口演発表を行いました

～ 血管内レーザー焼灼術による下腿逆流を伴う下肢静脈瘤の検討 ～

第42回 日本静脈学会総会が、2022年7月7日（木）、8日（金）にステーションコンファレンス東京で開催されました。

今回の学会テーマは「つどい、かたらう、静脈学」です。新型コロナウイルス感染症の影響により、第40回、第41回総会はオンラインでの開催となっておりますが、3年ぶりに現地（東京）での開催が決定し、学会員同士が集い、研鑽し交流を深める場となりました。

当院では、2006年12月より下肢静脈瘤の治療を始め、2015年5月には下肢静脈瘤専門外来を設置すると共に東播磨・明石地区では最初となる血管内焼灼用高周波（ラジオ波）を導入しました。その後、2018年12月には学会発表のテーマにもある血管内レーザー焼灼術、2020年7月より血管内塞栓術（医療用接着剤）を新たに導入するなど、患者さまの症状に適した治療法を選択しながら、年間200件以上の手術（治療）実績を重ねて参りました。

今回の口演では、膝下からの下腿逆流を伴う症例においては、足首内側から膝下までの神経損傷の問題もあり、下肢静脈瘤の治療は一期的には困難とされていましたが、レーザー治療機械及びエコー検査の進歩により、低侵襲で根治性のある手技がわが国でも可能となってきました。当院でも一期的に下腿治療を行った症例を検討し発表しました。

今後も積極的に学術活動を行いながら経験、技術を培い、地域の皆様方に安全・安心、信頼される医療を提供できるよう努めて参りたいと思います。

院長
石井 洋光

(学会会場にて)



★ 下肢の症状でお悩みの方は、下記外来を受診してください

※ 色付き枠：下肢静脈瘤専門外来

午前診	月	火	水	土
9:00 ～ 12:00	中村	中村		
		石井 9:30～	石井	石井 1.3.5週

午後診	月	火	木
16:00 ～ 19:00	石井		中村
		楠 17:00～19:00	西本 ～18:00

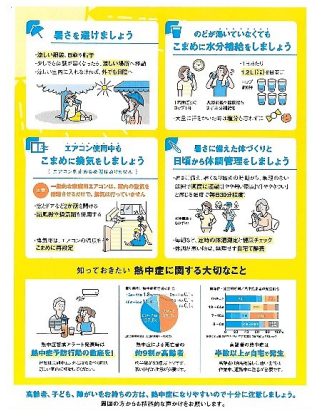


熱中症予防×コロナ感染防止 について

※ 厚生労働省発行令和4年度熱中症予防行動リーフレットより

「熱中症」は屋内や屋外の高温多湿な環境において、徐々に体内の水分や塩分バランスが崩れ体温調節機能がうまく働かなくなり、体に熱がこもることで起こります。まだまだ暑さが続くと予想されますので、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた熱中症予防のポイントをご紹介します。（リーフレット参照）

★ マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなり、気づかいうちに脱水になるなど、体温調整がしづらくなってしまいます。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。





～ コロナウイルス第7波による透析患者様の感染者急増について ～

令和4年7月14日付で厚生労働省健康局がん・疾病対策課、医政局地域医療計画課、新型コロナウイルス感染症対策推進本部の連名で、都道府県衛生主管部（局）宛に事務連絡「オミクロン株の感染流行を踏まえた透析患者の適切な医療提供体制の確保について（再周知）」が発出されました。日本透析医学会の新型コロナウイルス感染症対策ワーキンググループからも、「新型コロナウイルス患者数増加に伴う透析施設における対応と透析患者の透析医療の確保についてのごお願い」がありました。



仁恵会本部事務局長代行
兼 人工透析ひ尿器科
じんけいクリニック
事務長代行
はら しんいちろう
原 真一郎

内容としては、

新型コロナウイルス治療薬の確保

感染した透析患者の受け入れ態勢の確保

- (1) 受け入れ病床のさらなる確保
- (2) 病床逼迫に伴い、やむを得ない場合の対応



（個室透析室を完備しています）

①は、透析患者様が新型コロナウイルスに感染した場合、重症化リスクを有していることから、それぞれの病態などに応じた適切な治療薬を、早期に投与できる体制を確保することが重要とされており、当院でも、経口抗ウイルス薬（ラゲブリオ）を処方できる体制を整えています。患者様の状態に応じて、医師より治療が行われる体制を確保しておりますので、ご安心ください。

2（1）として、透析患者様は、コロナ病床の確保とともに透析ベッドの確保が重要になります。コロナ病床が空いていたとしても、隔離透析ベッドがないと透析患者様の入院病床の確保とは言えず、必要な治療ができないため、受け入れを行えないということになります。オミクロン株は軽症例も多く報告されている一方、透析患者様においては依然として重傷化の危険が高く、基本的方針としては、依然として入院が適切とされています。

2（2）しかし、第7波として病床が逼迫している現在では、すべての透析患者様が入院対応できない状況となっております。病床の逼迫に伴って、やむを得ず軽症患者や快方に向かっている透析患者様について早期の退院を行い、その後の療養を後方支援病院、自宅、高齢者施設などで実施することも考えられます。その際には、あかし保健所や、当院同会の石井病院と協力しながら、療養体制を整え、外来通院も可能な体制を整えております。

上記のような、厚生労働省や医学会からの情報に、対応できるよう一歩先を見据えて、常に患者様のことを考え、いかに行うべきか・どうすべきかを、適切な情報をもとに対策を講じております。

現在クリニックでは、石井病院とともに透析センターとして全スタッフ協力し、隔離透析室でコロナ感染患者様を対応しながら、感染患者様の増加が考えられるため、火木土曜日の3階透析室をコロナ対応透析ベッドとして、多数の患者様が感染した場合にも、対応できるよう対策しております。感染拡大が進み、感染患者様のみにならず、濃厚接触者患者様への、対応も考えなければならず、透析患者様の感染防止のため実行しております。隔離透析室では、陰圧装置を設置し治療中の患者様からの空気感染・飛沫感染を防止する対策を行っております。患者様が、安心して治療できる体制を整えていくことも、当院の重要な使命として実行しています。

感染対策として、常に達成ということではなく、状況に応じた対策を講じるため、患者様には、常にご協力いただいております。透析センタースタッフ一同、患者様と共に協力しながら、新型コロナウイルス対策を実行させていただきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

■ 医療連携相談室

平日 9：00～12：00 14：00～17：00
土曜 9：00～12：00
担当 酒見 古門 上野

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院 広報委員会
〒673-0881 明石市天文町1-5-11
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>